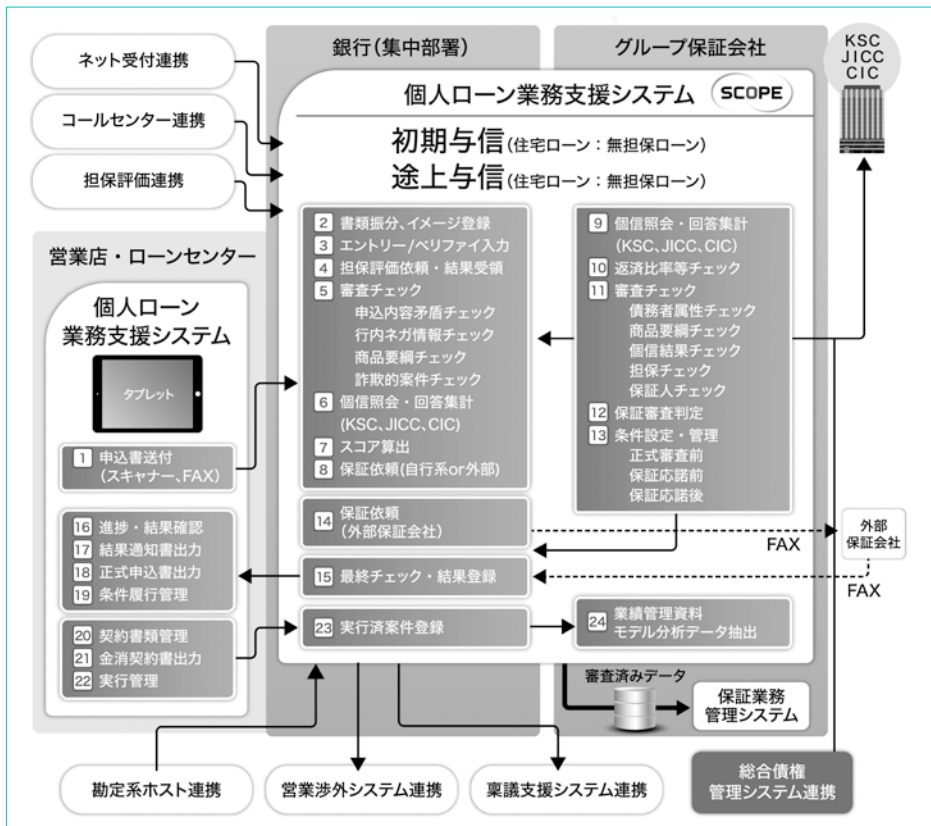


最新機器やFinTechなど

金融実務を大きく変える動きをレポート!

●スコープの概要と仕組み



アイティフォー
SCOPE 個人ローン業務支援システム
個人ローン業務を自動化・トータル管理する
機能により大幅な業務効率化を実現

金融機関において業務効率化は喫緊の課題であり、数ある金融分野の中で個人ローン業務も例外ではありません。ただし、効率化の取組みは容易ではなく、実現が難しいこともあります。こうした課題を解決するのが、アイティフォーの「SCOPE 個人ローン業務支援システム」です。

個人 ローンの手続きは、申込受付に始まり自行庫内での審査や保証会社での審査、審査判定、契約締結を経て融資実行となる。この一連の流れの中では、数多くの書類が取り扱われるだけでなく、関係者間でやりとりされる機会も多いため、個人ローン業務は手続きがとりわけ煩雑といわれている。金融機関における業務の効率化が重視されている今、個人ローン業務の効率化を課題とする金融機関は少なくない。しかし、効率化には高いハードルが伴う。

こうした問題を解決するのが、アイティフォーが提供する「SCOPE 個人ローン業務支援システム」(以下、SCOPE)だ。これは、個人ローンの受付から審

査、契約、実行までをフルサポートするWEB版パッケージとして、システム設計されている。

**ワークフローで
手続きの各過程を管理**

SCOPEの最大の特長は、「個人ローンの申込受付から契約書の作成までを可能な限り省力化し、一連の流れをトータルで管理できる」ことだ。

申込内容の入力から、審査の適格チェック、自行庫内の顧客情報照会・反社チェック、個人信用情報の取得、審査判定、承認となった場合の契約書作成までを自動的に進めることが可能になっている(図表)。すべての過程がワークフローで管理されるようになってお

**操作しやすいように
システム設計されている**

SCOPEはもう1つ大きな特長を持つ。それは、「金融機関の状況や体制などに応じてカスタマイズしやすい」ことだ。

この特長の1つの要素として、様々な機能が付随できる点が挙げられる。インターネット受付との連携やコールセンターとの連携など様々あるが、最も代表的なのが「タブレット受付システム」の搭載だ。

このシステムはタブレット端末で個人ローンの申込みを受け付けられるものであり、主な機能として①自行庫内の顧客情報の検索・取込機能や、②有担保・無担保の一括申込機能、③返済シミュレーション機能、④必要書類の写真撮影機能などがある。「金融機関の担当者が操作しやすいように設計されており、迅速な手続きが可能で

り、SCOPEにアクセスすることで各過程の件数や個別案件の進捗状況等を把握できる。通常、営業店で個人ローンの手続きを行う場合、営業店が中心となつて一連の事務処理を行う。営業店の担当者が担う事務は少なくないうえ、スムーズな進行のために進捗管理も欠かせない。複数の案件を抱える担当者場合は、個別の状況を勘案して段取りやスケジュールシナジーしながら同時並行で案件を進行するので、かかる負担は当然に大きくなる。

一方、SCOPEはそうした業務負担を緩和するとともに、営業店の業務を大幅に効率化する。一連の流れがパッケージ化されていることもあり、本部・センターへの業務集中化も容易に実現できるといふことだ。

「SCOPEにより手続きが本部やセンターに集中化されても、SCOPEを通じて営業店と本部・センターが進捗情報を共有することが可能になっています。営業店の担当者もSCOPEにアクセスできる

す。また、端末で入力した申込情報は直接SCOPEに送られるため、本部等での入力作業が削減できるといふメリットもあります」(榎本さん)

もう1つの要素として、メンテナンス機能の実装が挙げられる。自行庫で個人ローン商品の追加や審査判定基準の変更などがあれば、SCOPEのマスタテーブルの変更により適宜システムに反映が可能。追加・変更等に迅速に対応できるうえ、通常かかるシステム開発等のコストも低減できるといふことだ。

「SCOPEの提供開始から2年目ですが、すでに10社超の金融機関で採用されており、『異例の勢い』です」(榎本さん)性能上、フィンテックの進展にも幅広く対応できることから、ますます金融機関の注目を集める。今後も金融機関の業務効率化の実績を積み上げていくとともに、経営資源の有効活用による生産性向上にも一役買うのは間違いないだろう。

(本誌・湊由希子)